

北海道の新しい春どりいちご「空知35号」

果実が大きく多収で、さらに収穫作業の省力化も見込まれる新品種を開発しました

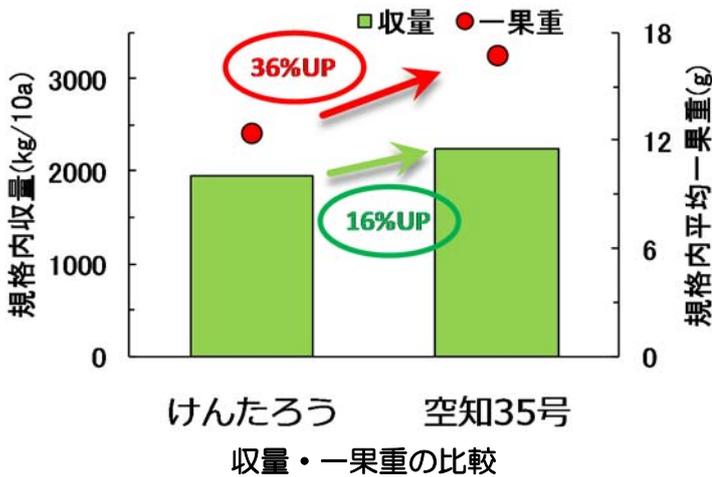
背景

- 春どり栽培の現在の主要品種「けんたろう」は、果実品質が良く市場で高く評価されています。一方、収量が不十分とされ、改善が強く求められています。
- いちごの収穫作業は手間がかかりますが、産地では高齢化が進み、作業の省力化が課題となっています。

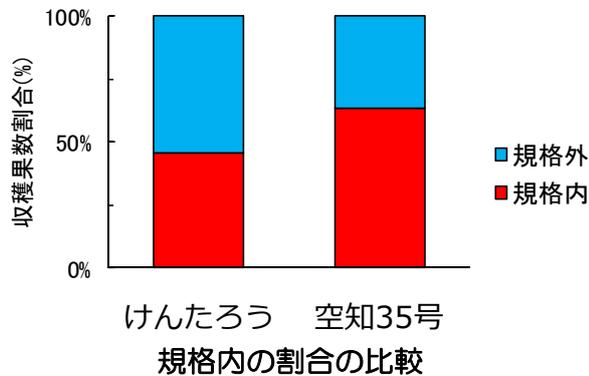
成果

新品種「空知35号」を開発しました

1 「けんたろう」より果実が大きく、規格内収量が やや多いです。



2 規格外の小果数が少ないため、収穫作業の省力化が見込まれます。



3 果実外観および食味の総合的な評価は「けんたろう」と同等です。

品種名	糖度 (Brix,%)	酸度 (%)	食味 総合*
空知35号	9.1	0.47	3.1
けんたろう	9.4	0.47	3.0

* 甘味、酸味、硬さ、香りなどにより総合的に評価。
5:良~3:けんたろう並~1:不良。

期待される効果

- 「けんたろう」並の果実品質を有する多収品種で、収穫作業の省力化にも貢献できるため、全道の春どり栽培面積の5割に相当する18haに普及が見込まれます。
- 春どりいちご栽培の収益向上と安定供給、府県産との競争力強化に寄与します。